

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成25年2月28日(2013.2.28)

【公開番号】特開2005-247846(P2005-247846A)

【公開日】平成17年9月15日(2005.9.15)

【年通号数】公開・登録公報2005-036

【出願番号】特願2005-53221(P2005-53221)

【国際特許分類】

A 6 1 K 8/00 (2006.01)

A 6 1 Q 5/10 (2006.01)

A 6 1 Q 5/12 (2006.01)

A 6 1 Q 5/06 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 7/13

A 6 1 K 7/08

A 6 1 K 7/11

【誤訳訂正書】

【提出日】平成25年1月11日(2013.1.11)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

糊化前処理したアミロース含有澱粉を含む組成物を人工的に染められた毛髪に適用すること、及び該糊化前処理した澱粉をシャンプーの前に乾燥させることを含む、毛髪上の人工色の耐久性及び安定性を改良する方法。

【請求項2】

該アミロース含有澱粉が、その澱粉の全重量を基準として、少なくとも50重量%のアミロースを含む、請求項1に記載の方法。

【請求項3】

該組成物がリープ オン(leave-on)組成物、またはリンス オフ(rinse-off)組成物である、請求項1または2に記載の方法。

【請求項4】

該少なくとも一種のアミロース含有澱粉が高アミロース澱粉である、請求項1～3のいずれかに記載の方法。

【請求項5】

該少なくとも一種のアミロース含有澱粉がカチオン性に改質された澱粉である、請求項1～3のいずれかに記載の方法。

【請求項6】

該少なくとも一種のアミロース含有澱粉が非イオン性に改質された澱粉である、請求項1～3のいずれかに記載の方法。

【請求項7】

該少なくとも一種のアミロース含有澱粉がアミロース含有コーンスターである、請求項1～3のいずれかに記載の方法。

【請求項8】

該少なくとも一種のアミロース含有澱粉が、該組成物の全重量基準で0.25～10重量%の

量で存在する、請求項 1 ~ 7 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 9】

該組成物が予備シャンプートリートメントである、請求項 1 ~ 8 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 10】

該組成物が、ムース、ゲル、ポマード、ワックス、ヘアースプレー、コンディショナー、及びそれらの組合せから成る群から選択されるものである、請求項 1 ~ 8 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 11】

該組成物が毛髪固定剤を更に含む、請求項 1 ~ 10 のいずれか一項に記載の方法。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0021

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0021】

アミロース含有澱粉は、適用前に糊化されねばならない。当技術において既知であり、例えば米国特許第 4,465,702 号明細書、第 5,037,929 号明細書、第 5,131,953 号明細書及び第 5,149,799 号明細書に開示されている糊化前処理した澱粉 (pregelatinized starches) が特に好適である。澱粉を糊化前処理 (pregelatinizing) するための通常の方法も、当業者に知られており、例えば Starch: Chemistry and Technology, Vol. III- Industrial Aspects, R.L. Whistler and E.F. Paschall, Editors, Academic Press, New York 1967 のチャプター XXII 「Production and Use of Pregelatinized Starch」に記載されている。一方、その組成物の使用前に、糊化が生じるまでの澱

粉は加熱され得る。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0022

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0022】

ここでの使用に適した性質を有するいかなる澱粉或いは澱粉混合物も、多糖に固有の、又は化工中に生成される澱粉の特徴及び色を取り除くために、当技術において既知の方法によって精製されても良い。澱粉を処理するための好適な精製プロセスは、欧州特許第 554,818 号 (Kasica ら) で代表される特許群に開示されている。粒状の又は糊化前処理した形態 (pregelatinized form) のいずれかでの使用を意図された澱粉について、アルカリ洗浄技術も有用であり、漂白プロセスと同様に、米国特許第 4,477,480 号明細書 (Seidel) 及び第 5,187,272 号明細書 (Bertalan ら) で代表される特許群に開示されている。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0023

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0023】

特に好適な澱粉は、高アミロース澱粉、カチオン性アミロース含有澱粉、及び糊化前処理した (pregelatinized) アミロース含有澱粉である。